



大阪部会(第21回)

日 時: 2010年12月25日(土) 16:00~18:00

場 所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

第21回の大阪部会は12名の参加者で開かれた。

- (1) まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表から、2010年11月13日(土)に福井大学で開催されたワークショップについての報告があった。三枝利多氏(目黒中学校教諭)による住宅メーカー教材を使った授業紹介、奥田修一郎氏(狭山市立南中学校)との討論などが行われた。
- (2) 次に、12月4日(土)に同志社大学で開催された年次大会の結果が報告された。参加者は57名に達し、地主敏樹神戸大学教授の講演の後、林敏彦同志社大学教授にも参加いただいた「効率と公正」をテーマにしたシンポジウムなどが行われた。大会当日も多くの授業提案やそれに対する意見が出されたが、本日の部会でも、効率と公正の教え方の難しさを、参加者で確認することになった。
- (3) 2011年春までに開催のワークショップが発表された。1月福岡、鹿児島、2月札幌、宮崎、3月沖縄などが予定されている。
- (4) 大学入試問題の検討プロジェクトの進展状況が西村理氏(同志社大学)から報告された。協力者各人に分担した入試問題の評価がほぼ出そろった段階であり、1月に東京と大阪で集まり、議論しながら調整しまとめていく予定である。実際の入試問題を「より良い」問題にするための提案までするかどうか、できるかどうかについては、いくつかの意見が出された。
- (5) 雑誌『経済セミナー』(日本評論社)からの依頼があり、経済教育ネットワークのバックアップで、中学高校の教員による中高の経済教育に関する記事が連載されることになった。新井明氏(都立小石川中等教育学校)を初回として、高校3回、中学2回の計6回、隔月1年間掲載される。
- (6) 中学用のゲーム教材が多数作成されているのに対し、高校用のゲーム教材は少ない。山本雅康氏(奈良学園中学・高等学校)から、高校でゲームを通して学べる可能性のある経済的なものの考え方・見方のリストが作成・配付された。それをもとに、高校ゲーム教材の作成可能性について議論した。
- (7) その他、財団等からの資金を得て経済教育ネットワークで検定外教科書を作成してはどうかとの提案が篠原代表からあった。また、当ネットワークの関係団体の一つである(財)日本経済教育センターでも、すし屋モデルという教材を開発し、新たな活動を模索していることが紹介された。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2011年3月5日(土)18:00~20:00 同志社大学大阪サテライト